

## おわりに

下松市では、事業名を「食育プロジェクトK～健康で快適な食生活・食文化の継承を図る地域のカ～」として取り組んできました。「K」は下松市、そして【K健康な食生活】【K快適な食生活】【K継承する食文化】の頭文字です。

①朝食摂取率の向上と朝食内容の充実【K健康な食生活】、②気持ちのよい食事マナーの定着【K快適な食生活】、③地場産食材や郷土料理への理解促進【K継承する食文化】をめざして、モデル校3校（下松小・公集小・花岡小）を中心に、市内の小学校8校・中学校3校（計11校）で実践を進めてきました。

モデル校の特色ある取組としては、朝食で野菜を食べることの習慣化をめざす「朝、野菜を食べたらシールをはろう」（下松小）、全校で工夫して給食の残食を減らすことに取り組んだ「あと一口運動」（下松小）、学級活動でよりよい朝食について話し合った「ハッピー朝食を考えよう」（公集小）、長期休業中での生活リズムの定着と朝食での野菜摂取の意識化と実践に取り組んだ「元気もりもりチャレンジカードによる朝食野菜摂取調査」（公集小）、児童が、全校朝会で箸・茶碗の持ち方や食事の姿勢、甘夏ミカンの食べ方（皮のむき方）について、寸劇・解説・実演を交えて発表した「給食委員会の取組」（花岡小）、自分で弁当をつくる体験をした「弁当の日」（花岡小）等が挙げられます。

実践を進める中で、「全校体制で取り組んだことにより、教職員の食育への意識が高まった」「朝食での野菜摂取や正しい食事マナー（姿勢、箸の持ち方）を意識する児童と保護者が増えた」「『親子料理教室』や『弁当の日』などの取組から、保護者・食生活改善推進員等との連携を図ることができた」等の成果がみられました。

しかし、一方で、保護者の食育に対する関心や意識の差が大きいこと等が事業で行ったアンケート調査から伺えたので、今後も全教職員が、継続して食育を推進するとともに、学校と家庭・地域がつながり、様々な教育活動を通じて食育を広めていきたいと考えています。

終わりにになりましたが、本事業の推進にあたり、御指導・御支援いただきました山口県つながる食育推進委員会の皆様をはじめ、山口県教育庁学校安全・体育課、下松市教育委員会等、関係者の皆様に心より御礼申し上げますとともに、今後とも、御指導・御助言を賜りますようよろしくお願いいたします。

平成31年2月

下松市つながる食育推進委員会  
委員長 藤本 哲城  
(下松市立下松小学校長)